

# LOCALS

## 横浜の人

横浜という土地で、ユニークな活動をしている人を紹介。



Photo:Sho Ueda Text:Rie Ochi

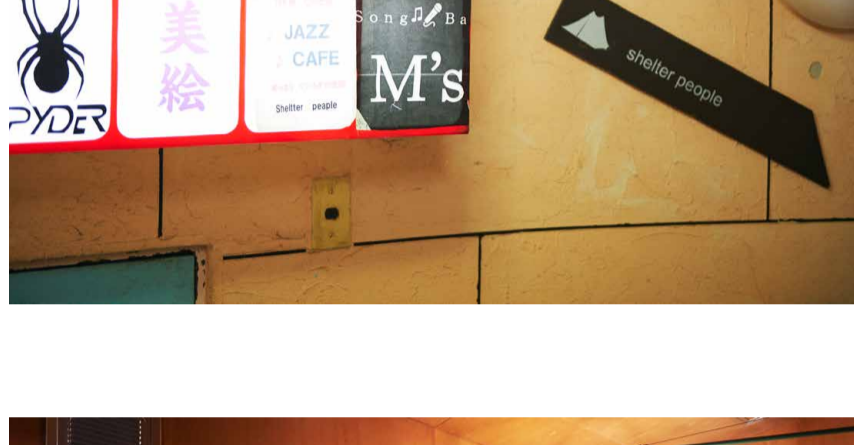
## 自然と会話が生まれる 山小屋のような空間に

shelter people Owner  
**TATSUYA YAMADA**

多彩な趣味を活かして、人が集まれる場所を作る

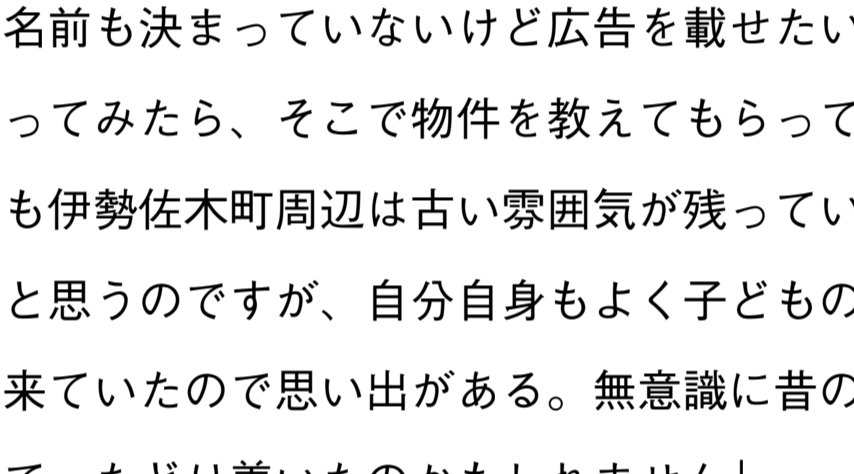
横浜の歓楽街に佇むレトロなビル『横浜エイトセンター』。その地下で営業しているカフェ『shelter people』は、扉をあけると街の喧騒から隔絶された空間が現れる。店主は横浜で生まれ育った山田達也さん。

「ずっとITの仕事をしていたのですが、昔から50歳を過ぎたら別のことをやりたいと思っていました。30年も続けていると何でも惰性でできてつまらない。何も決めずに会社を辞めて、山に行っては遊んでいたんですけど、自分ができることは何かと考えて店を始めました」



登山をはじめ、ジャズ、古美術、料理と山田さんが今まで造詣を深めてきた趣味を核に、人が集まれるような場所を作ろうと決意。そしてたまたま紹介してもらったのが、昔から馴染みのある横浜エリアの物件だった。

「『はま太郎』という横浜の酒場や歴史を紹介しているローカル情報誌があって愛読していたんです。まだ店の場所も名前も決まっていなくて広告を載せたいと編集部に行ってみたら、そこで物件を教えてもらって。横浜の中でも伊勢佐木町周辺は古い雰囲気が残っているのが魅力だと思うのですが、自分自身もよく子どもの頃に買い物に来ていたので思い出がある。無意識に昔の思い出を求めて、たどり着いたのかもしれない」



すべての事柄に対し、できることは自分でやるというのが店のモットー。内装工事でも自分で手掛け、装飾を削ぎ落としシンプルさにこだわった。温かみのある木に囲まれて、目に止まるのはオーディオスピーカーだけ。

「極力荷物を少なくして山に登っていると、世の中はモノが多すぎると感じるようになって。店名の“シェルター”はテントや避難小屋という意味。知らない人同士が集まって、自然に会話が生まれる山小屋のようにしたくて、何も無い空間にしています」

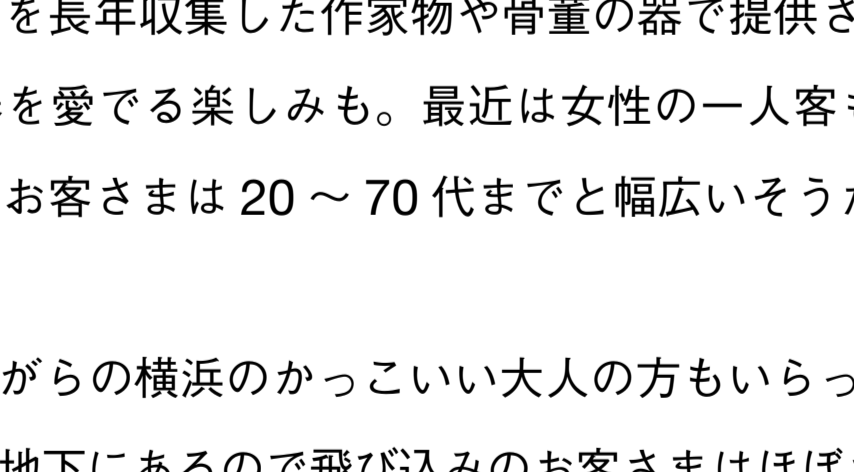
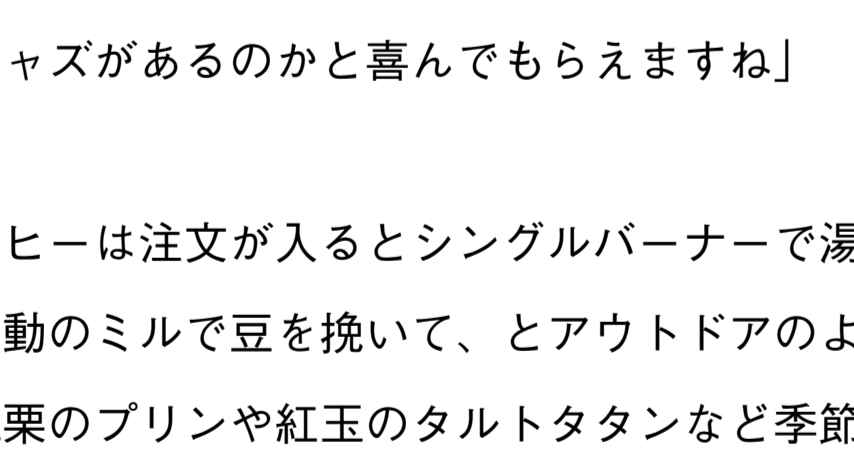
時間を忘れるシンプルな空間で、インターネットでは見つからない音楽を

山小屋のような『shelter people』で楽しめるのは、コーヒーとスイーツ、そして音楽。ヨーロッパの50～60年代のジャズを中心に、インターネットの検索には引かないような珍しいレコードにこだわっている。

「今は音楽もダウンロードできて、簡単に情報にたどり着けますが、それって楽しみを奪われてしまっていると思うんです。ジャズの有名どころは1枚も置いていません。店の周辺はジャズ喫茶も多いし、それらは他で聞いてもらえばいい。ジャズを聞き始めた方だけでなく、50、60年と聞いてきたお客さまにも、まだ自分が知らないジャズがあるのかと喜んでくれますね」

コーヒーは注文が入るとシングルバーナーで湯を沸かし、手動のミルで豆を挽いて、とアウトドアのような趣味。焼栗のプリンや紅玉のタルトタタンなど季節折々のスイーツは、添えるジャムも含めて山田さんのお手製。それらを長年収集した作家物や骨董の器で提供されるので、器を愛でる楽しみも。最近は女性の一人客も増え、訪れるお客さまは20～70代までと幅広いそうだ。

「昔ながらの横浜のかっこいい大人の方もいらっしゃいます。地下にあるので飛び込みのお客さまはほぼおらず、店を目指してきてくれる方が99%。お店にいる時間を売るという気持ちでやっているの、音楽、コーヒー、器と、総合的にここで過ごす時間を楽しんでいただけたら。今後はビル屋上でアウトドアチェアを並べて青空営業したり、コーヒーの自家焙煎も始めたいと思っています」



山田達也／横浜出身。IT企業に約30年勤めた後、2017年に『shelter people』をオープン。約400枚のレコードを聞きながら、コーヒーや自家製スイーツ、日本酒を味わえる。今後は自家焙煎も始める予定。

shelter people／横浜市中区長者町8-136-8 エイトセンター内地下1F右奥／営業時間 15:00～22:00L.O.、土・祝日13:00～20:00L.O.／定休日 日・月曜